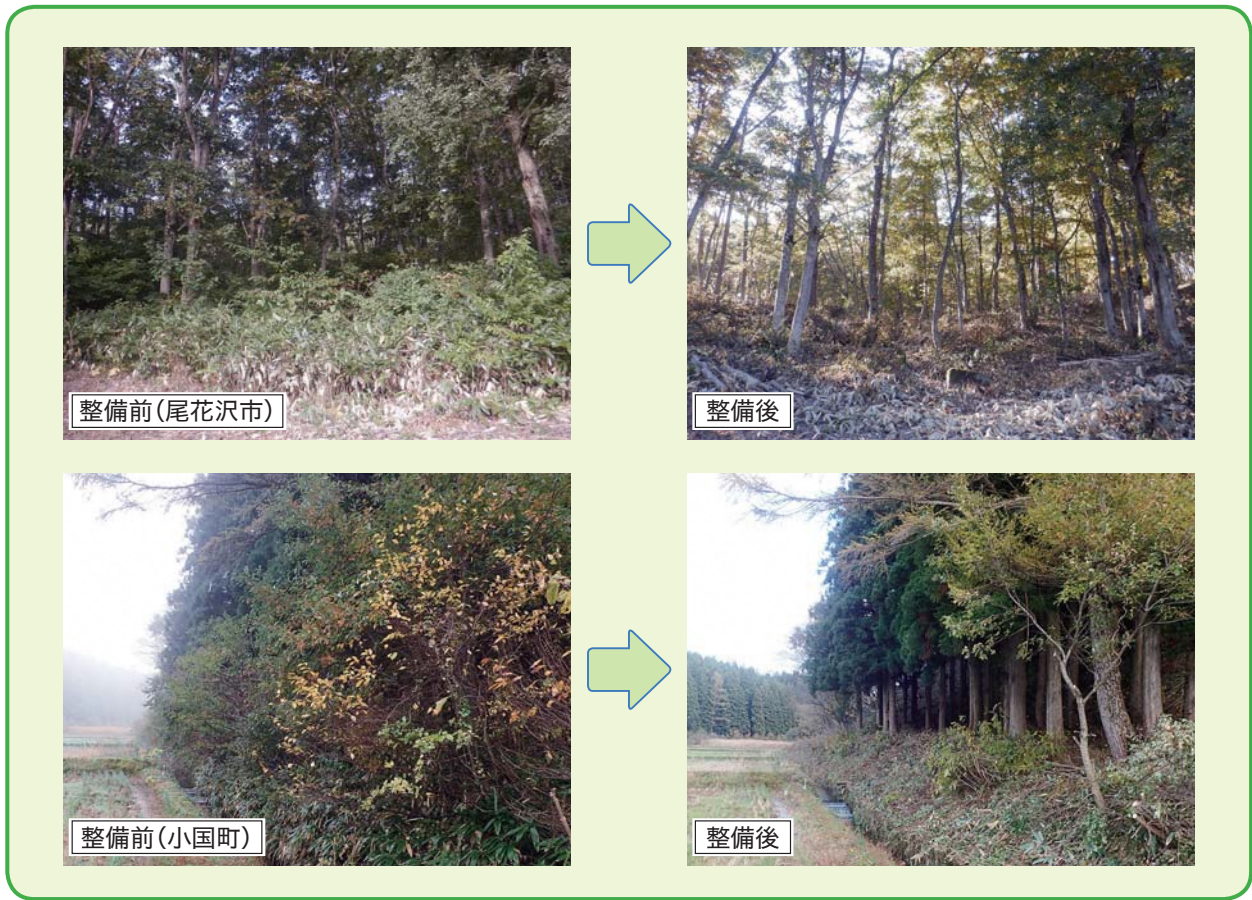
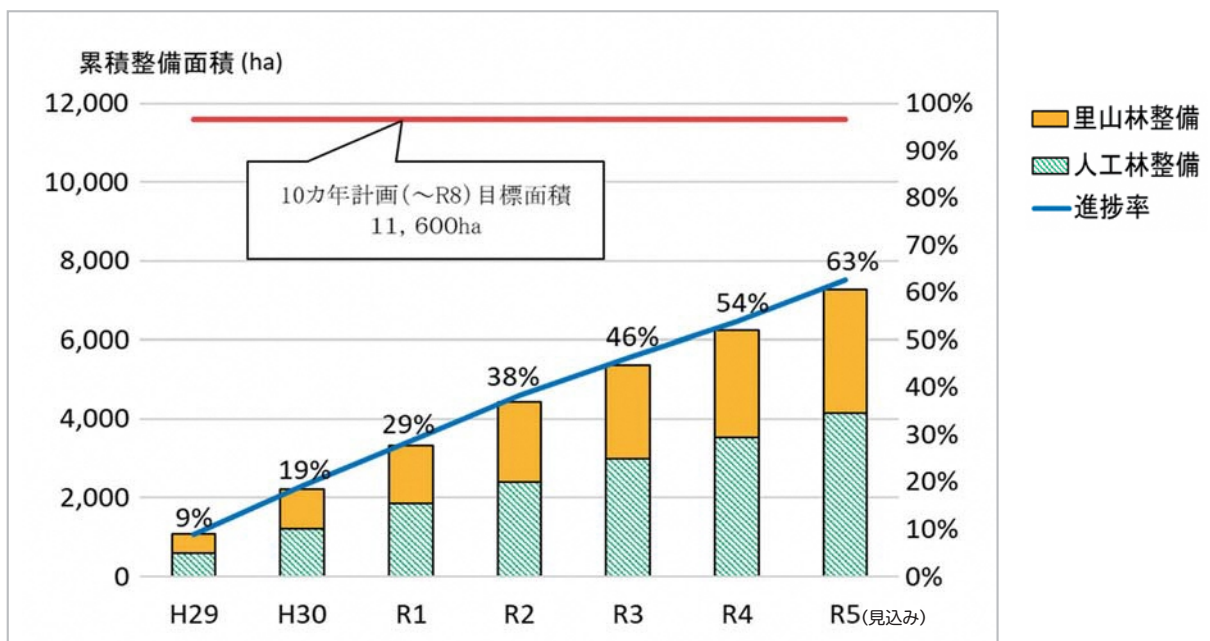


令和5年度の里山林整備の整備状況



平成29年度以降の荒廃森林緊急整備事業の実績

平成29年度から令和8年までの10年間で、11,600haの荒廃の恐れのある森林を整備する目標をたてており、令和5年度までに目標の63%を達成見込みとなっています。引き続き目標達成に向けて整備を進めてまいりますので、御理解・御協力をよろしくお願いいたします。





## 再造林の支援(森林資源再生事業)について

# 再造林の支援(森林資源再生事業)について

森林の伐採後に植栽が行われず放置されると、森林の再生が遅れ、公益的機能の低下が懸念されます。森林資源再生事業では、森林の公益的機能を持続的に発揮させるため、やまがた緑環境税を活用し、再造林の経費の一部を支援しています。令和5年度は84ha実施見込みとなっています。



苗木(コンテナ苗)と  
専用の穴あけ器具(ディブル)



苗木を植栽する穴をあける様子



穴に苗木を植栽する様子

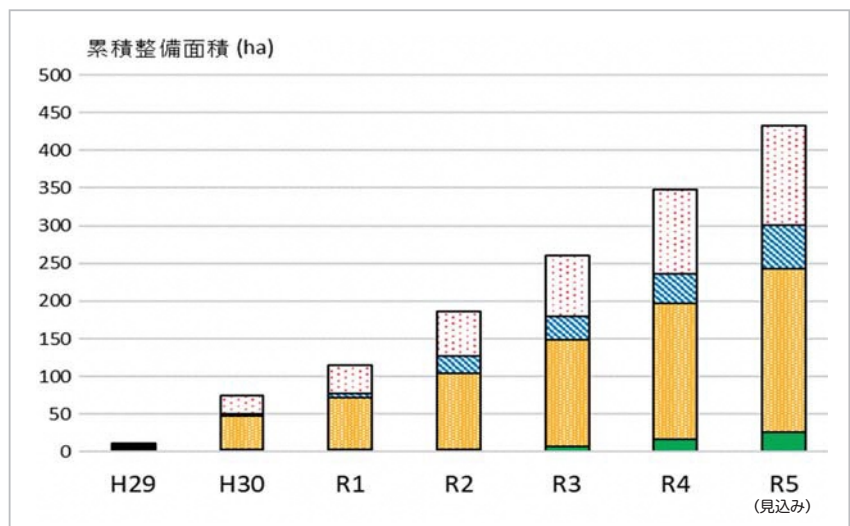
本事業で皆伐後の  
再造林を支援した箇  
所(庄内町)



### 平成29年度以降の 森林資源再生事業の実績

平成29年度から令和5年度  
までに、432haの支援を実施  
見込みとなっています。

- 村山
- 最上
- 置賜
- 庄内





# 森林資源循環利用促進事業・ 広葉樹林健全化促進事業について

## 1 低質材の運搬経費の支援（森林資源循環利用促進事業）

間伐されたスギ等の木は全て利用されているとは限らず、形質が悪い・採算が合わない等の理由で、林内に放置されるものが多くあり、これらを林地残材と呼びます。林地残材は、利用できる資源であるにもかかわらず未活用であることや、大雨の時に流出する危険性があること等が課題となっています。森林資源循環利用促進事業では、森林資源の循環利用を図り、森林の公益的機能の低下を防ぐため、伐採で発生した低質材を、合板用材やチップ・ペレット等の木質バイオマス燃料として利用するための運搬経費の一部を支援しています。毎年4万m<sup>3</sup>前後の事業実績があり、県内の未利用材の活用に貢献しています。令和5年度は合板等の素材利用として23,940m<sup>3</sup>、チップ・ペレット等の木質バイオマス燃料利用として21,635m<sup>3</sup>、合計45,575m<sup>3</sup>分の支援を行う見込みです。



林内に放置された林地残材



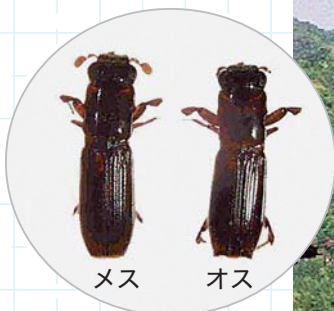
工場へ運材



木質バイオマス  
燃料用チップ

## 2 ナラ枯れ被害木を含むナラ林の伐採の支援 （広葉樹林健全化促進事業）

山形県内では、平成20年頃よりカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害が顕著になり、県内全域でミズナラやコナラなどのナラ類が多数枯死しました。広葉樹林健全化促進事業では、ナラ林の若返りと害虫の駆除を行うため、ナラ枯れ被害木を含むナラ林を伐採し、伐採木の搬出利用を行う伐採事業者に対して、経費の一部を支援しています。県内のナラ枯れ被害は近年減少傾向ですが、依然として村山地域を中心に被害が確認されているため、継続して被害拡大防止に取り組んでいきます。



メス オス



カシノナガキクイムシ ナラ枯れ被害林(赤く見えるのが枯死木)



ナラ枯れによる枯死木



# みどり豊かな森林環境づくりの推進について

やまがたの豊かな緑を県民共有の財産として健全な状態で未来へ引き継ぐためには、荒廃のおそれのある森林の整備と併せて、県民一人ひとりが森林や自然環境を自らに直接関わる問題として捉え、積極的に森づくり活動等に参加することが必要となっています。

そのため、県では、地域住民や市町村等の多様な主体が行う計画的かつ広がりのある活動や、地域と連携して行う森づくり活動等を支援することで、県民参加の森づくりの推進を目指しています。

## 事業内容

### ① 豊かな森づくり活動

地域住民との協働による里山林の保全活動等



下刈



枝落し

### ② 自然環境保全活動

希少野生生物の生息地の保全活動等



希少種の保全



生息調査

### ③ 森や自然とのふれあい活動

子どもたちや地域住民に対する森林・自然環境学習等



森林環境学習



林業体験

### ④ 木に親しむ環境づくり

木材の地産地消の取組み、木工体験等



木工体験



木と触れ合う体験学習

## 各地域における取組み

### 村山地域

#### ② 自然環境保全活動

【大石田町の取組み（市町村里山再生アクションプラン）】

大石田町では、町指定天然記念物のギフチョウ・ヒメギフチョウの生息域となっている里山環境の保全を図るため、地元の川前地区と協力し、産卵数調査や生息地の下刈り等の保護活動に取り組んでいます。この地域は、ギフチョウ・ヒメギフチョウが全く同じ場所に混生する珍しい場所であり、昭和63年から30年以上にわたり、毎年5月に専門家と共に産卵調査を実施しています。

また、自然保護の大切さを学ぶため、町内の小学校でギフチョウ・ヒメギフチョウに関する学習会も開催しており、子どもたちが里山の豊かな自然の仕組みを知ること、自然を守る大切さや、自然環境保全に関する意識の向上に繋がっています。



ギフチョウ等に関する学習会の状況